



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

完成へ一歩、また一歩 ——

滝井病院新本館上棟式を挙行



上棟式で、祭壇に向かって祈念する岩坂病院長

CONTENTS

法人： 附属滝井病院上棟式	P.2	卒後臨床研修センター： 後期臨床研修合同説明会を実施	P.22
大学： 医学部オープンキャンパスを開催	P.8	同窓会： 医療事故調査制度について	P.23
病院： TAKE！ABI in KANSAI	P.18	メディア情報・編集後記	P.24

無事の完成を祈願

附属滝井病院新本館上棟式



最後の鉄骨を前に、記念撮影に収まる参加者一同

7月29日(水)午前10時30分から、来年5月にオープンする附属滝井病院新本館の上棟式が挙行されました。滝井病院岩坂壽二病院長、木下利彦理事(建設担当)をはじめ、多数の学内外関係者、及び工事関係者が出席しました。

鋳納め、鋳締め、締めの儀で、ボルトを締める木下理事



神事の様子



最後の鉄骨を手綱で送る参加者

出席者は、はじめに完成間近の新本館1階に設けられた祭壇前で儀式に臨み、竣工まで残り約半年あまりとなった工事の無事を祈りました。その後は守居神社神職による祝詞奏上を経て、屋外へ移動。「祝 上棟 関西医科大学附属滝井病院」と書かれた鉄骨のボルトを金銀の工具で締め、施主と施工の代表が手綱で送りました。やがて、建屋の最後の建材となるその鉄骨がクレーンで空高く引き上げられ、一同は工事の無事を祈願。徐々に完成後の姿を見せつつある新本館を前に、期待の高まった一日でした。

附属滝井病院リニューアル事業計画 進捗報告



上棟式を挙行し、ついに建設作業も終盤へ——
 来年5月のオープンに向けて急ピッチで作業が進みます

※写真は9月時点の定点写真

リニューアル工事ギャラリー



内装工事が進み、室外機の設置も順調に進行しています。



順調に工事が進む新本館は建物の全体像が姿を現し、現在は内装や配管、空調設備の施工が急ピッチで進んでいます。また、既存の建屋と新本館をつなぐ地下通路の掘削も進行中。周辺の方々には仮設道路の通行をお願いしていますが、今後も丁寧な施工で無事の完工を目指します。

リニューアル工事定点写真



7月時点



8月時点



新本館エントランス完成予想図

関西医大、附属病院、そして自分 —— 未来を語り合った内定者集合会

9月14日(月)午後2時から、枚方学舎4階中会議室および附属枚方病院において「第二回内定者集合会」が開催され、平成28年度採用予定の内定者が参加しました。オリエンテーションからスタートしたこの日



記念の集合写真に収まる内定者

の集合会は、枚方病院の概要説明の後病院見学へ移動。院内各所を回り、興味深く見学していました。続いて内定者の自己紹介を経て、入職までのスケジュール説明を受けました。休憩を挟んで行われた懇親会では、参加した人事部職員に仕事や将来について質問。内定者たちは二度目の開催とあって打ち解けた様子を見せ、ジュースや軽食を片手にまだ見ぬ未来を思い、それぞれ語り合っていました。

内定者集合会は予定の時間を越えて大いに盛り上がり、参加者は希望に満ちた表情で大学を後にしました。



平成27年度北河内6医師会と 関西医科大学医師会との合同懇談会



乾杯の音頭を取る滝井病院岩坂病院長(右端)と、盃を掲げる参加者

9月26日(土)午後5時からリーガロイヤルホテル・ウエストウイング2階山楽の間において、「平成27年度北河内6医師会と関西医科大学医師会との合同懇談会」が開催されました。これは、本学が位置する北河内医療圏内の医師と本学教職員が交流を深め、密な連携を図るため2年に1度開催されるもの。今回は、地元の医師や本学教職員らが参加しました。

冒頭、大東・四條畷医師会井上梅樹会長の挨拶があり、その後第一部では附属枚方病院澤田敏病院長が座長を務め、枚方病院病理診断科植村芳子診療教授が「近

くて遠い病理の世界 —現状と展望—」を講演。日頃直接顔を合わせる機会の少ない病理医がどのように診断を行っているのか、最前線の現場を詳しく紹介しました。

続いてタワーウイング3階ロイヤルホールへ会場を移して行われた第二部 懇親会では、交野市医師会波戸良光会長の挨拶の後、附属滝井病院岩坂壽二病院長の音頭で乾杯。地元医師と本学教職員との間で話の花が咲き、より一層交流が深まった一夜となりました。

「施設設備整備拡充資金」の募集

関西医科大学では平成27年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

- | | |
|------------|---|
| 1. 募集対象 | 本学学生の保護者、同窓会員、
本学関連の個人および法人その他 |
| 2. 募集金額 | 1口100万円 1口未満でも申し受けます。 |
| 3. お問い合わせ先 | 関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL：072-804-2146（直通）
FAX：072-804-2344 |

平成27年7月1日から平成27年9月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名の掲載は控えさせていただきます

リーダーとしての資質向上を目指して 階層別研修実施



新任管理職研修で、グループワークに取り組む職員



8月6日(木)・7日(金)の2日間、いずれも午前9時から午後5時10分まで枚方学舎4階カンファレンスルームCにおいて「新任管理職研修」が実施され、4月以降新たに管理職となった6名が受講。管理職の役割をはじめ、マネジメントの基礎(財務・コンプライアンス・労務管理・リーダーシップ・組織風土)について講義とグループワークを履修しました。

また、9月10日(木)・11日(金)の2日間、いずれも午前9時から午後5時10分まで枚方学舎4階中会議室において「新任係長研修」が実施され、この1年で係長となった12名が受講。係長の役割をはじめ、財務・CSR(企業の社会的責任)・人財育成・課題発見と解決方法について、講義の受講とグループワークを行いました。

それぞれの受講者は自らが置かれた立場を理解し、新たな気持ちでこれからの業務に向かうべく意識を高めました。

主な出来事

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	<p>8月6日・7日 新任管理職研修</p> <p>9月26日 平成27年度北河内6医師会と関西医科大学医師会との合同懇談会</p> <p>9月14日 第二回内定者集合会</p>	 <p>附属滝井病院新本館上棟式</p>
大学	<p>7月2日 「国外臨床実習の成果」報告会</p> <p>7月11日 第33回医学教育ワークショップ</p> <p>7月13日 知的財産セミナー</p> <p>7月16日 公的研究費に係るコンプライアンス教育・使用ルール等説明会</p> <p>7月18日 Advanced OSCE</p> <p>7月25日 健康沿線トークカフェ</p> <p>7月26日・医学部オープンキャンパス／産学連携成果パネル展示</p> <p>8月1日 3Dプリンター説明会</p> <p>8月5日 3Dプリンター説明会</p> <p>8月19日 臨床研究相談会</p> <p>8月19日・研究医養成コースコンソーシアム合宿</p> <p>8月20日 研究医養成コースコンソーシアム合宿</p> <p>8月21日 クリニカル・クラークシップ中間報告会</p> <p>8月26日 臨床研究相談会</p> <p>8月27日 学長賞授与式</p> <p>9月5日 大学院前期入学試験</p> <p>9月8日 平成26年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式</p> <p>9月9日 臨床研究相談会</p> <p>9月11日 平成28年度科研費公募要領等説明会</p> <p>9月15日 大学院講座第714講</p> <p>9月29日 学位記授与式</p>	 <p>平成27年度北河内6医師会と 関西医科大学医師会との合同懇談会</p>
附属 枚方病院	<p>7月1日 病棟に七夕の笹を設置</p> <p>7月9日 第2回脳卒中救命フォーラム</p> <p>7月18日 サマーコンサート</p> <p>7月23日 教育講演会</p> <p>7月29日 1日看護師体験</p> <p>8月1日 市民公開講座</p> <p>8月7日 オープン看護フェア</p> <p>9月3日 医療安全感染合同研修</p>	 <p>平成27年度医学部オープンキャンパス</p>
附属 滝井病院	<p>7月4日 放射線教育訓練</p> <p>7月10日 第3回滝井血管病セミナー</p> <p>7月18日 サマーコンサート</p> <p>7月22日 消防訓練</p> <p>7月29日 滝井病院上棟式</p> <p>8月29日 第24回肝臓病セミナー</p> <p>9月12日 TAKE! ABI in KANSAI 2015 市民公開講座</p>	 <p>TAKE! ABI 2015 in KANSAI</p>
香里病院	<p>7月4日 七夕コンサート</p> <p>9月19日 出張医療セミナー</p>	
附属看護 専門学校	<p>7月28日・附属看護専門学校オープンキャンパス</p> <p>8月1日・附属看護専門学校オープンキャンパス</p> <p>2日 附属看護専門学校オープンキャンパス</p> <p>9月18日 球技大会</p>	
卒後 臨床研修 センター	<p>7月5日 レジナビフェア2015in大阪(初期研修)出展</p> <p>7月24日 平成28年度初期臨床研修医採用試験(第1回)</p> <p>8月7日 平成28年度初期臨床研修医採用試験(第2回)</p> <p>9月12日・ACLSプロバイダーコース第1回</p> <p>13日 ACLSプロバイダーコース第1回</p> <p>9月13日 マイナビレジデントフェスティバル大阪</p> <p>9月26日 後期臨床研修合同説明会</p>	 <p>平成27年度附属看護専門学校 オープンキャンパス</p>

大 学

知的財産セミナー開催 医療と知的財産～ゼロから学べる知的財産～



実際の商品を手に取りながら知的財産について解説する佐田教授

セミナーは、産学連携知的財産統括室楠本健司室長の閉会挨拶をもって終了しました。

7月13日(月)午後5時から枚方学舎加多乃講堂において、国立大学法人山口大学学長特命補佐佐田洋一郎教授を招き、知的財産セミナー「医療と知的財産～ゼロから学べる知的財産～」が開催されました。伊藤誠二研究担当副学長の開会挨拶に続いて、佐田教授は“知的財産”の歴史からその本質、保護法制、世界の現状などについて講演。活用の現実について、特許権の登録を忘れたがゆえに模倣品がマーケットシェアを奪ってしまった事例等を紹介しながら解説しました。

また、医療分野では“医療機器”などは特許権の対象となるが、“診療技術”は対象にならないと話しました。他にも、特許出願に際して長年の審査官経験に裏打ちされたノウハウを紹介。最後に、研究分野には幅広い法規制が存在するが、それらを上手く活用することで強力な武器になると締めくくりました。

第7回健康沿線トークカフェを開催 看護・介護のサポート機器がテーマ

7月25日(土)午後3時から附属枚方病院13階レストランのぞみにおいて、「第7回健康沿線トークカフェ～看護・介護動作をサポートする機器～」が開催されました。これは、産業界・大学・官公庁・民間が相互に連携することで京阪沿線住民の健康を増進させるために、各界の代表者が参加して活発な議論を行う情報交換の場として始まった取り組み。今回は、看護や介護のサポート機器に関する技術開発課題などを自由に議論できるプラットフォームの形成を見据え、本学教職員をはじめ枚方市、介護施設・他大学・民間企業などから関係者22名が参加しました。

産学連携知的財産統括室三島健顧問の挨拶の後、大阪工業大学情報科学部情報ネットワーク学科井上雄紀教授が「看護・介護における自走ロボットの活用」を、腎泌尿器外科学専攻高安健太大学院生が「医工学分野での研究」を、ヒルロムジャパン株式会社本屋愛子クリニカルアプリケーションシニアが「世界のベッド最先端開発状況」を、それぞれ講演。その後も活発な意見交換が行われました。



当日の質疑応答の様子

最新3Dプリンターの活用を探る 3Dプリンター説明会を開催



3Dプリンターで出力された大動脈モデルを手取る参加者

8月5日(水)午前10時から枚方学舎4階中会議室において、3Dプリンター説明会が開催されました。これは、本学の教育・診療・研究における3Dプリンターの活用法を模索しようと開催されたもの。株式会社クロスエフェクト、マテリアライズジャパン株式会社、株式会社サイフューズの3社が参加し、担当者が順次説明しました。

最初に登場したクロスエフェクトは、先天性小児心疾患の術前シミュレーションの実現を目指して同社が開発した超軟質心臓モデルを例に、医療における3Dプリンターの有効性を解説。参加者は、実際に出力された心臓モデルを手に取り、その精巧な仕上がりに驚嘆している様子でした。続くマテリアライズジャパンは、同社のソフトウェアを中心に紹介。外資系ならではの高付加価値モデルの作成に特化したスキルの高さをアピールしました。また、サイフューズは、細胞そのものを立体的に構造化する同社独自の技術・バイオプリンタを紹介。他の2社とは異なる3Dプリンターの活用を提案しました。

質疑応答では、実際の運用コストや出力可能な臓器、生体を用いたバイオプリンタの特徴についてなど、実際に即した質問が多数あり、興味の強さをうかがわせました。

大 学

平成27年度医学部オープンキャンパスを開催 医学部生の卵をおもてなし

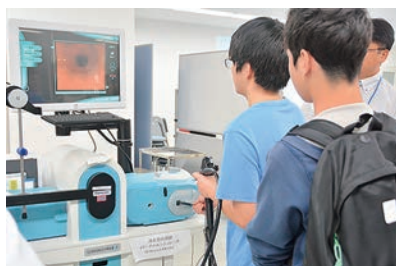


7月26日(日)と8月1日(土)、いずれも午前11時から枚方学舎各所において、平成27年度医学部オープンキャンパスが開催されました。今年も2日間で延べ746名が来学。両日も活況を呈しました。特に、医学部受験のための勉強法や入学後の医学部学生生活を現役学生が本音で語る『在学生トークイベント』『個別相談』、内視鏡手術・腹腔鏡手術のシミュレーション機器や胸骨圧迫などのBLS(一次救命処置)などが体験できる『シミュレータ・BLS体験コーナー』には多くの参加者が来場。事前申込制で実施された『病院施設見学』も前日までに申し込み枠が埋まり、注目の高さを見せました。



その他にも加多乃講堂では、友田幸一学長(7月26日)と松田公志副学長(8月1日)の挨拶、影島賢巳教務副部長(7月26日)と野村昌作教務部長(8月1日)の『カリキュラム説明』、楠本健司学生部長(7月26日)と木村穰学生副部長(8月1日)の『キャンパスライフ説明』、藤井茂入試センター長の『入試概要説明』、病態検査学講座蔦幸治教授(7月26日)と解剖学第一講座山田久夫教授(8月1日)の『模擬講義』などを実施。講堂に入りきらなかった参加者は枚方学舎第一講義室での同時中継を視聴するなど、多数の参加者が熱心に聴き入りました。

また、今年は本学が取り組んでいる最新の研究内容を紹介する『研究内容紹介パネル展示』において、企業との共同研究から生まれた製品のポスターと実物の展示を実施。骨伝導技術を用いた補聴器やカテーテルシミュレータを実際に試すなど、黒山の人だかりができていました(次ページ参照)。オープンラウンジでの茶道部による『抹茶サービス』、現役学生がガイド役となって枚方学舎を案内する『キャンパス見学』、3階学生食堂での『無料学食体験』、4階カフェテリアでの『ドリンクサービス』など、催しもの盛りだくさんで開催されたオープンキャンパスは、盛況のうちに幕を閉じました。



大 学

オープンキャンパス内で、2015年度 産学連携成果パネル展示



展示に見入る参加者

7月26日(日)と8月1日(日)に開催された平成27年度医学部オープンキャンパスでは、枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、産学連携成果パネル展示が行われました。これは、本学と企業の共同研究から生まれた製品のポスターや実際の製品を展示し、来場者にその成果を広くアピールするための取り組み。また、この日は産学連携知的財産統括室の活動や、本学が主導して展開・啓蒙が進む『健康沿線』の説明、本学が取得している商標の一部などが、展示されました。

特に『骨伝導イヤホン』や『カテーテルシミュレータ』については、実物を体験できることもあってか、両日とも多くの見学者が展示ブースを訪問。展示物の体験や担当職員・企業担当者の説明に、熱心に聴き入っていました。

医学部オープンキャンパス 参加者アンケート結果

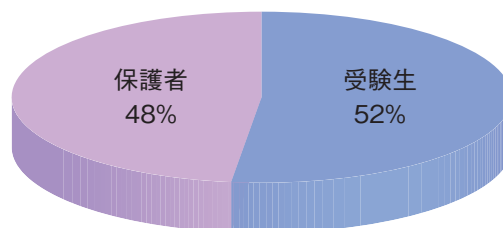
今年度の医学部オープンキャンパスには受験生390名、保護者356名、合計746名が参加。参加者アンケートをお願いしたところ358名(48%)から回答があり、その9割程度が「参加して良かった」とコメントしました。中でも好評だったプログラムは「病院見学」、「在学生トークイベント」、「シミュレータ・BLS体験」、「無料学食体験」でした。

病院見学については「普段見られないところを見学できた」「施設がきれいで充実していることが分かった」、在学生トークイベントについては「大学生の生の声を聞くことができ良かった」「受験勉強に関するヒントが得られた」との意見も寄せられ、満足度の高さがうかがえます。また、昨年度アンケートにあった「在学生トークイベントの規模を拡大して欲しい」との要望を受け、実施会場を増やして受験勉強と学生生活の2種類の在学生トークイベントが実施されましたが、いずれも好評で会場から溢れるほどの参加者がありました。

好評だったプログラム

- ・病院見学
- ・在学生トークイベント
- ・シミュレータ
- ・BLS体験
- ・無料学食体験

来場者内訳



医学部入学試験の出願受付が始まります

平成28年度関西医科大学医学部入学試験 出願受付開始日

- ・一般試験(前期)
- ・センター試験

12月21日(月)

- ・一般試験(後期)

2016年2月5日(金)

大 学

平成27年度クリニカル・クラークシップ 中間検討会を開催



発表する野村教務部長(右端)と、耳を傾ける5学年学生

8月21日(金)午後5時から、枚方学舎加多乃講堂において「平成27年度クリニカル・クラークシップ中間検討会」が開催され、5学年学生らが参加しました。この日は友田幸一学長が臨席し、野村昌作教務部長の挨拶で開会。臨床実習小委員会谷川昇委員長が「クリニカル・クラークシップとCCR」を、附属枚方病院看護部櫻井知賀副部長が「360度評価の現状(看護部の立場から)」を、野村教務部長が「教育医長の意見」を、それぞれ発表しました。

また、引き続き行われた「学生の意見」発表では、「空き時間を過ごせる部屋が欲しい」や「教員との連絡手段を見直して欲しい」など学生から様々な意見が出され、谷川委員長や参加した教育医長が丁寧に回答。より良い臨床実習のために前向きな議論が交わされました。

続いて医学教育センター木下洋センター長が「平成27年度前期クリニカル・クラークシップの全体評価」を発表した後、「参加型臨床実習」をテーマとしたムービーを鑑賞して、検討会は閉会しました。

第33回医学教育ワークショップ

7月11日(土)午前9時から枚方学舎加多乃講堂、学生セミナー室、及び各会議室において「第33回医学教育ワークショップ」が開催され、教職員53名・学生3名の計56名が参加しました。今年のテーマは、「主体性を引き出すための授業(アクティブラーニング)とICT化の活用について」。教育ICT化に関する委員会谷川昇委員長が「本学におけるICT化について」、影島賢巳教務副部長が「実際のICT機器使用の現状、問題点について」、医学教育センター木下洋センター長が「本学のアクティブラーニング現況について」、東京女子医科大学医学部医学教育学教室菅沼太陽助教が「ICTを利用したアクティブラーニング」、大学情報センター渡邊淳准教授が「ICTの利活用と著作権」と題し、順次講演しました。

講演に続いて行われたグループ討論では、参加した教員と学生が「ICT利用から自己学習にいかにつなげるか」、「臨床実習時のMoodle使用から自己学習にいかにつなげるか」、「ICTの活用で発生する問題及び講義の双方化と出欠の不正防止」、「本学のアクティブラーニング現況とICT化の具体策」について討論。現状の問題点から具体的な改善策などの提案に向けて議論を交わしました。

参加者らは「教員間の意識共有ができた」、「ICTを使用する教育方法を考える起点となった」とコメント。今回のワークショップの結果は本学ホームページ上に公開し、今後の本学ICT化に活かしていく予定です。

平成26年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式

9月8日(火)午後3時45分から枚方学舎4階・中会議室において、「平成26年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が執り行われました。これは、学生からの教育評価アンケートに基づき、優れた教育を行った科目・教員を表彰する取り組み。本年度は9つの講座とコース、5名の教員に教育奨励賞が友田幸一学長から授与されました。なお、受賞部門および対象者は右表の通りです。



表彰式で友田学長(左から2人目)から表彰状を受け取る受賞者

【教養・基礎社会科目部門】

第1位	医学英語 I	中川 淳 教授
第2位	分子生物学	平野 伸二 教授
第3位	シミュレーション実習	木下 洋 学長補佐

【臓器別系統別コース部門】

第1位	腎尿路コース	松田 公志 教授
第2位	免疫・膠原病・アレルギーコース	野村 昌作 教授
第3位	血液・移植コース	野村 昌作 教授

【教員部門】

第1位	奥藤 里香 助教	医学英語 I B
第2位	川浦 孝之 助教	情報処理実習
第3位	松田 達志 准教授	免疫学
第4位	竹之内徳博 准教授	微生物学
第5位	磯田 昌岐 准教授	生理学 2

【臨床実習科目部門】

第1位	形成外科学	楠本 健司 教授
第2位	臨床検査医学(現・病態検査学)	蔦 幸治 教授
第3位	皮膚科学	岡本 祐之 教授

平成27年度 公的研究費に係るコンプライアンス教育・ 使用ルール等説明会が開催

7月16日(木)午後3時から枚方学舎加多乃講堂において、文部科学省が定めた『公的研究費の管理・監査のガイドライン』に基づき、「平成27年度公的研究費に係るコンプライアンス教育・使用ルール等説明会」が開催されました。この日は、公的研究費の交付を受けている研究代表者や研究分担者、連携研究者、研究協力者、発注を行う大学院生、伝票を作成する秘書、決裁者である教授など125名が出席。伊藤誠二副学長(コンプライアンス推進責任者)の冒頭挨拶の後、研究費不正使用に対する本学の取り組みや、公的研究費の使用ルール及び物品等の調達・検収について、事務局から説明がありました。また、『「公的研究費の研究活動における不正行為」「公的研究費の不正使用」に関するハンドブック』が配布された他、理解度を確認する小テストも実施。質疑応答の時間には日々の研究活動に即した実践的な質問が飛び交うなど、研究不正防止に向けて真剣に取り組んでいました。



多数の関係者が参加した説明会の様子

平成28年度 科研費公募要領等説明会を開催



冒頭、挨拶に立った伊藤副学長

9月11日(金)午後3時から枚方学舎加多乃講堂において、「平成28年度科研費公募要領等説明会」が開催されました。科研費(=科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)とは、文部科学省所管の独立行政法人日本学術振興会の助成事業で、優れた研究課題に取り組む研究者・グループに研究資金が助成される制度です。今回の説明会には、研究者および関係者36名が参加しました。

冒頭、挨拶に立った伊藤誠二副学長は昨今の研究倫理不正問題に触れ、注意を呼びかける一方で積極的に科研費獲得を目指してほしいと述べました。また、講演では麻酔科学講座廣田喜一准教授が審査の仕組みや申請区分ごとの相違点、計画調書に盛り込むべきポイントなどについて解説。続いて、大学事務部から書式やその他注意事項について説明がありました。

なお、本学では平成27年度に309件の科研費申請を行い、100件を超える採択を獲得しました。今年度はさらなる申請数・採択数増を目指します。

大 学

未来へ向けて決意をにじませ— 平成27年度9月学位記授与式



列席者の祝福のもと、学位記を手に微笑む修了生



9月29日(火)午後3時30分から枚方学舎4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ伊藤誠二副学長、中邨智之大学院教務部長らが列席し、「平成27年度9月学位記授与式」が挙行されました。この日記念すべき節目を迎えた9名は、やや緊張した面持ちで学位記授与式に出席。友田学長から一人ひとりに手渡しで医学博士の学位記が授与されました。また、その後の学

長告辞で友田学長は、「(医学)博士の称号は、誰にでも与えられるものではない。学位記は努力の結晶。これからも初心を忘れず今後とも精進しつづけてほしいし、後進の育成にも取り組んでほしい」と挨拶。学位取得者の過去の努力に対する労いと、これからのに対する期待の気持ちを贈り、学位記の取得を祝いました。

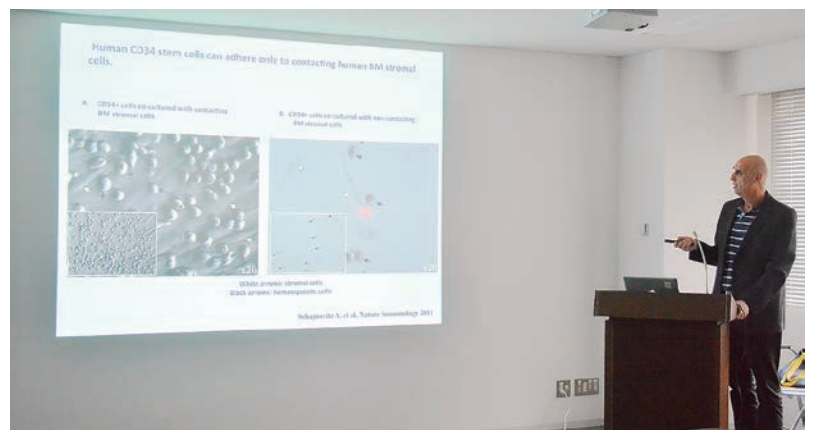
イスラエルよりお越しいただきました 大学院講座第714講

9月15日(火)イスラエルにある Weizmann Institute of Science (ワイツマン科学研究所) から、免疫学分野の研究者 Tsvee Lapidot 教授が来学。午後5時から枚方学舎4階カンファレンスルームDにおいて「Metabolic regulation of blood and bone forming stem cells -The role of ROS and nitric oxide」をテーマに大学院講座第714講を開講し、Lapidot教授が講義しました。この日は衛生学講座菌田精昭教授が司

会を務め、大学院生や教職員が出席。これまでの教授の多くの研究業績のなかから、幹細胞における代謝制御について図表を交えながら詳しく解説しました。長時間に渡る熱心な講義に会場は盛り上がりを見せ、終了後に出席者から次々と質問が飛ぶとLapidot教授も丁寧に回答。本学にとっても出席者にとっても、大変有意義な時間となりました。



熱心に講義するLapidot教授



キャンパスライフ

関西4医科大学合同 研究医養成コースコンソーシアム合宿を実施



参加者全員での記念写真

8月19日(水)・20日(木)の2日間、奈良県橿原ロイヤルホテルにおいて研究医養成コースコンソーシアム合宿が1泊2日で開催されました。昨年に引き続き2回目の開催となった今回は、コンソーシアムを形成する奈良県立医科大学、大阪医科大学、兵庫医科大学の他、兵庫医科大学の連携校である神戸大学医学部からも学生が参加。各大学から学生、教職員合わせて41名が参加しました。



初日は各大学の研究医養成に関する取り組みの紹介、参加学生による研究発表を実施。続いて「研究の楽しさは何だろう?」「研究と学業を両立させるには?」をテーマに、5グループに分かれてワークショップを開催しました。その後の夕食を兼ねた懇親会後では、討論内容を発表。学生の“研究”に対する姿勢や思いを共有することができました。合宿中は学生や教員が大学の枠を越えて盛んに交流することができ、将来研究医を目指す学生にとって、大きな刺激になりました。

Let's study abroad !! 「国外臨床実習の成果」報告会

7月2日(木)午後5時30分から枚方学舎加多乃講堂において、「国外臨床実習の成果」報告会が開催されました。英語教室中川淳教授の司会で始まった報告会は、冒頭野村昌作教務部長が挨拶に登壇。続いてアメリカやカナダ、ドイツ、マレーシアでの国外臨床実習を経験した6学年学生10名が、それぞれの成果を英語で報告しました。集まった1学年学生125名を含む約140名の聴衆は、現地での生活や一日のスケジュール、実際の実習で学んだことなどの話に、熱心に耳を傾けていました。



国外臨床実習についてプレゼンテーションを行う6学年学生

質疑応答のコーナーでは、国外での臨床実習で困ったことやおすすめの実習国、実際に暮らしてみないと分からない体感治安などについての質問があり、活発に意見を交換。その後友田幸一学長の講評、野村教務部長の平成28年度国外臨床実習派遣に関する説明と続き、臨床実習小委員会谷川昇委員長の閉会挨拶で閉会しました。

大 学

水泳女子総合優勝 —第67回西日本医科学生総合体育大会

8月8(土)から8月19日(水)にかけて、第67回西日本医科学生総合体育大会(西医体)が大阪府を中心とした関西各府県の各種競技場において開催されました(一部冬季競技は本年春に実施済み)。大阪市立大学医学部が代表主管校を務めた今年の西医体では本学も協力校に名を連ね、運営にも協力。競技面では、本学が水泳女子において総合優勝を果たすなど、日頃の練習の成果を存分に発揮しました。主な成績は以下の通りです。

テニス	男子部門	ベスト16	
	女子部門	ベスト16	
バレーボール	男子部門	ベスト16	
水泳	男子 400m 個人メドレー	6位	愛甲 一樹(6学年)
	女子 総合順位	1位	
	女子 50m バタフライ	3位	宇野安祐美(2学年)
	50m 背泳ぎ	2位	天野 晶望(1学年)
		3位	早田菜保子(5学年)
	女子 100m 背泳ぎ	3位	天野 晶望(1学年)
		6位	早田菜保子(5学年)
	女子 200m リレー	3位	北出(3学年)・宇野(2学年)・ 天野(1学年)・早田(5学年)
女子 400m リレー	5位	北出(3学年)・宇野(2学年)・ 天野(1学年)・早田(5学年)	
女子 200m メドレーリレー	1位	天野(1学年)・北出(3学年)・ 宇野(2学年)・早田(5学年)	
ラグビー		ベスト16	

文武両道を体現した学生を表彰 「学長賞授与式」挙行



記念写真に収まる(左から)友田学長、藤原さん、楠本学生部長



8月27日(木)正午から枚方学舎4階中会議室において、平成26年度に目覚ましい活躍を遂げた学生を称える「学長賞授与式」が挙行されました。この日の式典には、友田幸一学長と楠本健司学生部長が列席。昨年8月に開催された第66回西日本医科学生総合体育大会・陸上競技女子4×400m競走で、リレーチームの

一員として準優勝を飾り、文武両道を体現した4学年学生・藤原侑香さんへ、友田学長から表彰状と副賞が手渡されました。その後、友田学長は「これからも文武両道に頑張ってください」と挨拶。藤原さんに激励のメッセージを贈りました。

病 院

伸びやかなメロディが患者さんを癒す― 附属3病院で院内コンサートを開催

7月4日(土)午後2時30分から香里病院において「七夕コンサート」が、7月18日(土)午後2時から附属滝井病院において「サマーコンサート」が、同日午後2時30分から附属枚方病院において「院内サマーコンサート」が、それぞれ開催されました。

香里病院2階エントランスホールでは、関西を中



【枚方病院】浴衣姿で歌声を響かせる本学「コールクライス」



【香里病院】パワフルな歌声で会場を湧かした「関西VOJA」

心に活動しているゴスペルコーラスグループ「関西VOJA」のメンバー7名が登場。「Amazing Grace」や「Oh Happy Day」などゴスペルのスタンダードナンバーから、「七夕」や「しょうじょうじの狸ばやし」などの童謡まで、約110名の聴衆を前にパワフルで美しい歌声を届けました。

また、滝井病院本館6階臨床講堂において、昨年度に引き続き和太鼓サークル『どっこい』のメンバーが和太鼓を演奏。太鼓に合わせたおどりや唄のパフォーマンスも披露しました。演奏中は入院患者さんも一緒に太鼓を叩くなど、楽しいひと時を過ごしました。

枚方病院では、2階エントランスホールに入院・外来患者さんら約250人が集まり、本学混声合唱団コールクライスが出演。浴衣を着用して夏らしい雰囲気を出しながら、「学歌のぞみ」や「上を向いて歩こう」、「瑠璃色の地球」など全7曲を披露しました。来場者からは「涼しげな浴衣姿や素敵な歌声に勇気もらった」などの声が聞かれました。



【滝井病院】迫力ある和太鼓の演奏を披露した「どっこい」

伊丹空港で災害時医療訓練 本学枚方・滝井病院合同DMATが参加



自衛隊による訓練を見学するDMAT隊員ら

9月1日(火)大阪国際空港(伊丹空港)において、政府主催の総合防災訓練に付随する「大規模地震時医療活動訓練」が行われ、本学からは附属枚方病院と附属滝井病院の合同DMATが参加しました。

この訓練は、前日正午に首都直下型地震が発生した結果首都圏に大きな被害が生じ、それを受けて伊丹空港に広域医療搬送拠点(SCU)が設置された、との想定で実施。滝井病院救急医学科齊藤福樹講師と看護師1名、枚方病院の看護師1名と事務員2名、合計5名が伊丹空港の制限区域内に設けられたSCUに参集しました。その後SCUでは、被災地から搬送された患者の容体安定化訓練や搬送訓練が行われ、参加者は機敏な動きで治療と情報収集にあたりました。実地訓練は、降り出した豪雨のため途中で中止となりましたが、参加者はその後、自衛隊機の離発着訓練を見学するなど、災害医療に対する意識を高めました。

病 院

附属枚方病院

災害拠点病院の一員としての自覚を高める 災害医療研修会を実施

8月18日(火)午後5時30分から、附属枚方病院13階講堂および合同カンファレンスルームにおいて「災害医療研修会」が実施されました。これは、災害発生時における傷病者の受け入れや医療救護チームの派遣などを担うため、大阪府知事から指定される“災害拠点病院”として毎年実施されている研修です。今回は災害医療ワーキングチーム中嶋麻里教育担当(救急医学講座助教)が講師を務め、災害や災害医療の定義、発災時の行動フローなどを解説。その中で中嶋助教は「南海・東南海地震は非常に高い確率で発生が予想されている。災害拠点病院で働くスタッフとして、災害時は全職員が対応にあたることを強く意識して欲しい」と繰り返し強調しました。

その後は医療職と事務職の二手に分かれ、医療職は実際のトリアージタグを用いたトリアージ講習を、事務職はトランシーバーの使い方と防災設備解説並びに災害備品の保管場所の現地確認を、それぞれ行いました。参加者は“災害医療”について真剣に学びました。



グループに分かれてトリアージタグの使い方を学ぶ参加者

医療安全や感染制御、530人が熱心に学ぶ 附属枚方病院で合同研修会



過去最高の530人が受講した医療安全・感染合同研修会

9月3日(木)午後5時15分から附属枚方病院13階講堂、及び合同カンファレンスルームにおいて「医療安全・感染対策合同研修会」が開催されました。はじめに枚方病院感染制御部宮良高維部長(第一内科学講座診療教授)が『院内感染対策が必用な理由は何ですか?』をテーマに、患者全員に対して標準予防策で接する必要があることやエボラ出血熱が疑われる場合の対応など、院内感染対策について講演。続いて枚方病院医療安全管理部宮崎浩彰副部長(第三内科学講座准教授)が、インシデント事例に対する部署での取り組みや、他院での医療事故事例を踏まえ枚方病院で行った取り組みなどを紹介しました。

今回の研修会には、医療安全や院内感染制御への関心の高まりから枚方病院開院以来過去最高となる530名が参加。また、研修会から3週間後には医療法に基づく特定機能病院に対する近畿厚生局と枚方市保健所の立ち入り検査を控えていたこともあり、参加者はメモを取るなど熱心に耳を傾けていました。

「負担の少ない」がんの最新治療法を紹介

附属枚方病院が市民公開講座開催

8月1日(土)午後2時から枚方市立総合福祉会館・ラポールひらかたにおいて、『ここまで進んだ!がん治療の最前線』をテーマに、附属枚方病院市民公開講座が開催されました。冒頭、放射線科学講座谷川昇教授による開会挨拶の後、枚方病院呼吸器外科科長村川知弘診療教授が「最新の肺がん外科治療～胸腔鏡手術について～」を講演。胸腔鏡を使用することで低侵襲の肺がん手術が可能となり、適応範囲も拡大していることを、映像も交えて分かりやすく紹介しました。

また、放射線治療科科長中村聡明講師は「放射線治療の最前線～IMRTから粒子線治療まで～」と題して、7月から枚方病院でも始まったIMRT(強度変調放射線治療)のほか、粒子線治療についても紹介。

拡大する放射線治療について「情報技術の進展に比例して放射線治療も日々大きく進歩している。今後も治療成績の向上や有害事象の減少が期待できる」と述べました。当日は最高気温が37度を超える猛暑となりましたが、がん闘病中の患者やその家族を中心に、約150名の市民が詰めかけて熱心に耳を傾けていました。



がんの最新治療について紹介された市民公開講座

病 院

超急性期の脳卒中治療、救急隊員に語る 「附属枚方病院脳卒中救命フォーラム」開催

7月9日(木)午後6時から枚方学舎2階第4講義室において、附属枚方病院脳卒中センター主催による「第2回脳卒中救命フォーラム」が開催され、枚方寝屋川消防組合や交野市消防本部など近隣の消防本部から約110名の救急隊員が参加しました。

同センター浅井昭雄センター長による開会挨拶の後、脳神経外科学講座武田純一助教が「くも膜下出血について」を、続いて神経内科学講座三宅浩介助教が「超急性期脳梗塞のいろは」を、それぞれ講演。武田助教は、くも膜下出血を見分ける症状や治療法などについて紹介後「当院は高度救命救急センターのため最重症の患者さんが多数搬送されるが、可能性がある限り積極的な治療を行う」と語りました。また、三宅助教はt-PA静注療法やカテーテル治療など、超急性期治療でも低侵襲治療に積極的に取り組んでいることを紹介しました。

講演終了後は枚方学舎3階学生食堂において意見交換会も行われ、医師と救急隊員が日頃の疑問について積極的に意見を交換。互いの連携を深め、地域医療に貢献していくことを確認し合いました。



脳梗塞の低侵襲治療について講演する三宅助教(中央奥)

医療従事者は、SNSとどう付き合うべきか？ 教育講演会を開催



実際の炎上事例を紹介する仲野准教授

7月23日(木)午後5時20分から附属枚方病院13階講堂において、「SNSの正しい付き合い方」をテーマに教育講演会が開催されました。これは、インターネット上でいわゆる“炎上”が頻発する状況を踏まえて、看護師や医師など医療従事者にも意識を高めてもらうために初めて開催されたものです。教育委員会松井陽一副委員長の司会でスタートした講演会は、大学情報センター仲野俊成准教授が講師として登壇し、SNSの概要から各サービスの特徴、実際の炎上事例紹介、利用上の注意、トラブル発生時の対処法など、幅広く解説しました。

また、SNSの利用ルールと違反者に対する厳しい罰則を定めたイギリスの看護師資格登録機関の取り組みを紹介し、今後本学も何らかの規制が必要になるだろうとの予想が示されました。SNSについて利便性を認めた上で「利用しない手はないが、使い方をしっかり守って有効に活用しよう」と呼びかけました。

目指せ！未来の看護師！ 一日看護師体験を開催

7月29日(水)午前9時から附属枚方病院において、高校生を対象とした「一日看護師体験」が開催されました。これは、“看護”に対する理解を深めるとともに、進路選択の参考としてもらうために行われている大阪府の事業。この日は、大阪高等学校・香里丘高等学校・枚方なぎさ高等学校から25名が参加しました。

まっさらな白衣に身を包んだ参加者は、オリエンテーション、枚方病院安本マリ看護副部長の歓迎の挨拶を経て、各病棟に分かれて足浴や手浴、血圧測定、目薬の点眼などを体験。参加者は「(看護師体験は)面白かった。看護師になりたいという気持ちがあります強くなった」と笑顔で話していました。また、和やかな雰囲気の中看護師長・副師長との懇親会も開かれ、参加した高校生にとっては看護師についての理解が深まった一日となりました。



足浴の介助に挑戦する高校生(左から2人目、4人目)

病 院

白衣をまとう、未来が見えた?! オープン看護フェア開催



先輩ナース(右から2人目)と交流する参加者

8月7日(金)午後1時から附属枚方病院および枚方学舎各所において、「オープン看護フェア」が開催されました。この日は、将来看護師として働くことを志望している4年制大学の看護学部学生や看護専門学校学生らに加え、本学内定者4名を含む20名が参加。冒頭、枚方病院看護部櫻井知賀副部長が枚方病院の看護師育成・研修体制に関するプレゼンテーションを行い、ムービー視聴の後、グループに分かれて枚方病院を見学しました。その後、休憩を挟んで枚方学舎3階シミュレーションセンターへ移動。シミュレータを用いた聴診器体験や、模擬採血、老化体験などが行われました。

また、午後3時50分からは枚方学舎3階学生食堂において先輩ナースとの交流会を実施。参加者は現役の若手先輩ナースに率直な質問をぶつけ、先輩も真剣に答えていました。交流会は終了の時間が来ても話が尽きず、大きな盛り上がりを見せていました。

夜祭り風情、入院中の子どもが楽しむ 附属枚方病院5E病棟で「子ども病棟夏祭り」

8月26日(水)午後6時30分から附属枚方病院5E病棟プレイコートにおいて、「子ども病棟夏祭り」が開催され、長期入院中の子どもやその保護者ら84人が参加しました。このイベントは、慣れない入院生活を送る子どもたちやそのサポートに追われる保護者に少しでもストレスを発散してもらおうと、毎年開催されているもの。今年は前日に通過した台風の影響が心配されましたが、予定通り参加者全員の風船飛ばしで幕を開けました。子どもたちはスタンプ帳をもらい、保護者や浴衣姿の看護師と一緒に輪投げにスーパーボールすくい、本学茶道部学生ボランティアにより設けられた茶席などを順番に回り、満面の笑みを浮かべていました。

訪れた子どもや保護者たちは単調になりがちな入院生活を忘れ、しばし夏の夜祭り風情を楽しんでいました。



長期入院中の子どもたちが輪投げなどを楽しむ様子

附属滝井病院

TAKE! ABI 2015 in KANSAI開催 多数の市民が来院

9月12日(土)午前10時から、附属滝井病院本館6階臨床講堂において、「TAKE! ABI 2015 in KANSAI」が開催されました。ABI(ankle brachial index)とは、手と足



手足の血圧を測定する参加者。この後、医師の個別相談に臨んでいました

の血圧を測定し、その差から動脈硬化が起こっていないか、また重症化する可能性がないかを調べる検査です。会場では、検査結果をもとに医師が参加者の相談を受けるコーナーも設けられました。

また、同日正午からは滝井病院南館2階臨床講堂において「どうしたら動脈硬化にならないの?」をテーマに市民公開講座を開催。第一部では末梢血管外科駒井宏好診療教授が、動脈硬化の初期症状や重症化した場合の症例を紹介し、早期発見の重要性を強調するとともに食事や運動習慣を見直し、日常生活から予防を心がけることが大切であると呼びかけました。第二部では、滝井病院栄養管理部満森恵子管理栄養士が、食材の選び方や調理法、減塩テクニックなど具体的な食事の摂取方法についてアドバイスしました。

“断らない病院”を有言実行 救命救急センターICUを増床



増床された救命救急センターICU

附属滝井病院救命救急センターでは、膨大化する救急医療の需要に対して安定した医療提供体制を確保し、かつ救急医療の更なる質的向上を図るため、平成27年8月7日からICUを6床増床し、従来の8床を14床としました。また、ICUを離脱した患者さんの急変時にも素早い対応がとれるよう、隣接する6床部屋4室を4床部屋に再編いたしました。

附属滝井病院救命救急センターは、今後も「断らない病院」を基本方針として各診療科と連携強化を図り、近隣地域の住民に対し安定的かつ質の高い救急医療を提供していきます。

職員の血管病に対する意識を向上 第3回滝井血管病セミナー

7月10日(金)午後6時から附属滝井病院南館2階臨床講堂において、滝井病院血管内治療センター主催「第3回滝井血管病セミナー」が開催されました。これは職員の血管病に対する意識向上を目的としたもので、今回は福岡山王病院循環器センター横井宏佳センター長(国際医療福祉大学教授)を講師に招聘。横井氏は『全

身の動脈硬化性疾患に対する治療戦略』をテーマに講演しました。その中で脳や心臓、腎臓から下肢まですべての動脈硬化症をどのように治療すべきか、興味深い内容を分かりやすく面白く解説。充実した講習会となりました。

第24回肝臓病教室を開催 “C型肝炎”がテーマ

8月29日(土)午前10時30分から附属滝井病院本館6階臨床講堂において「第24回肝臓病教室」が開催され、約40名が受講しました。今回は“C型肝炎”をテーマに滝井病院消化器肝臓内科山科雅央助教、同病院薬剤部久保悦子薬剤師と、同病院医療福祉相談課江田賢一ソーシャルワーカー、同雑賀未紀ソーシャルワーカーが“C型肝炎の治療法やトピックスを、それぞれの立場から講演。参加者は講師の説明に熱心に聞き入り、終演間際には活発な質疑応答が展開されるなど充実したセミナーとなりました。また、恒例の健康運動指導士によるストレッチ体操も好評を博しました。

なお、今後の予定は来年3月12日(土)午後2時から、守口文化センターエナジーホールにおいて「第7回よくわかる肝臓病セミナー」を開催予定。事前申し込み不要で参加費も無料です。詳しくは滝井病院肝臓病センターのホームページ(「関西医大 肝臓病センター」で検索)でお知らせします。



講演に聴き入る参加者

放射線作業従事者登録に対する教育及び訓練を実施

7月4日(土)と10月15日(木)午後1時から、附属滝井病院において「附属滝井病院放射線作業従事者登録に対する教育及び訓練」が実施されました。これは、放射線障害予防法に基づく放射線業務従事者の教育および訓練で、関西医科大学放射線障害予防規定第33条に依拠したものです。当日は滝井病院放射線科播磨洋子部長、同米虫敦助教による講義が行われ、それぞれ放射線が

人体に与える影響や放射性同位元素または放射線発生装置の安全な取り扱い方法など、詳しく解説。7月4日(土)の開催時には93名の職員が参加しました。参加した職員は、東日本大震災等で起こった放射線事故に照らし合わせた講義を熱心に聴講。放射線を扱う職業人としての意識と知識を高めていました。

非常時の行動確認と防火意識を徹底 附属滝井病院で消防訓練を実施

7月22日(水)午後3時30分から、附属滝井病院において消防訓練が実施されました。今回は病院本館4階4E病棟湯沸し室から出火したとの想定で、約40名の職員が消火や避難誘導の訓練に参加。終了後の反省会では「訓練に参加した人の声が小さかった」との意見が出たため、統括管理者(病院長)の号令の下「火事だ!火事だ!火事だ!」と参加者全員で唱和し、改めて防火意識の徹底を図りました。定期的に行っている消防訓練では、職員一人ひとりが非常時における行動を再確認するだけでなく、防火・防災に対する意識を高める非常に有意義な機会。今後も安全・安心な療養環境を維持するために、取り組んでいきます。



火元に見立てた回転灯めがけて、消火器の筒先を向ける参加者

香里病院

香里病院出張医療セミナーの開催

9月19日(土)午後2時から、香里病院に隣接する高層マンション ザ・香里園タワー4階コミュニティルームにおいて、マンションの住民の皆さんを対象とした出張医療セミナーが開催されました。この企画はもともと附属

滝井病院でスタートした地域密着型のセミナーですが、香里病院周辺にも近隣に大規模な高層マンションがあることから、地域住民の健康づくりのお手伝いと、改めて香里病院を知ってもらう機会を設けることを目的に開催され、当日は70名近い住民が参加しました。

初めに香里病院渡部幸広事務部長代理が、関西医大全体の病院ネットワークと香里病院の診療体制などを説明。続いて高山康夫病院長が「生活習慣を改善して心臓病を予防しよう」と題して、生活習慣をどのように改善すれば心臓病の予防となるかを解説しました。

いずれの講演も、参加者は熱心に聴講され、質疑応答でも活発な質問があり、継続的な開催の希望が上がりました。香里病院では、今後もこのような近隣マンション、地域の自治会など、コミュニティ単位でセミナーを開催していく予定です。



講演する高山病院長と、熱心に聴き入る参加者

附属看護専門学校

附属看護専門学校オープンキャンパス開催

7月28日(火)・8月1日(土)・8月2日(日)、いずれも午前10時から牧野キャンパスにおいて、平成27年度附属看護専門学校オープンキャンパスが開催され、高校生や社会人、保護者など389名が参加しました。例年通り、オープンキャンパスは看護専門学校の概要や学校生活、カリキュラムなどを説明する第1教室での講演からスタート。看護師のやりがいを描いたムービーの放映も行われ、目に感動の涙を浮かべながら見つめる参加者の姿も見られました。その後、牧野キャンパス各所で学生・教職員による相談会や、学生の実習見学、学校行事のスライド上映、入試の過去問題展示などが行われました。

また、午後からは希望者(3日間で157名)が枚方学舎と附属枚方病院を見学。天候にも恵まれ、参加者は教職員や学生と触れ合う中で看護教育を身近に感じ、自らの進路について思い描いているようでした。



オープンキャンパスで参加者からの質問に答える在校生

バトンでつなぐクラスの輪 附属看護専門学校球技大会開催



試合前に円陣を組む学生たち



9月18日(金)午前9時15分から牧野キャンパス体育館において、附属看護専門学校球技大会が開催されました。今年のテーマは「動かせ筋肉!つなぐ絆!～バトンでつなぐクラスの輪～」。

ドッジボール・バスケットボール・リレー・ムカデ競争・風船運び・二人三脚・三人四脚など、多彩な種目が行われました。

附属看護専門学校清水由紀子教務主任の開会挨拶でスタートした各競技では、学生たちが真剣な表情でプレーし、体育館全体が白熱。応援席でも、自分たちのチームが点数を獲得したり良いプレーを見せたりすると、「わっ」と大きな歓声が上がりました。また、試合終了後はチームの垣根を越えて互いの健闘をたたえあう学生の姿も見られ、テーマ通り「絆」が繋がった一日となりました。

卒後臨床研修センター

後期臨床研修合同説明会 今年初めて、枚方学舎で開催



診療科ごとに分かれて行われた説明会の様子

9月26日(土)午後3時から枚方学舎3階学生食堂において、枚方学舎では初の開催となる附属枚方病院と附属滝井病院共同の後期臨床研修合同説明会が開催されました。昨年は19名の参加にとどまりましたが、今年は学内21名、学外6名の計27名の研修医が参加。また、各診療科からも19科・35名の指導医が出席しました。

当日は、友田幸一学長、卒後臨床研修センター金子一成センター長も挨拶に登場するなど、本学にとっても参加者にとっても、熱い思いが込められた説明会となりました。

初期研修病院説明会 レジナビフェア2015 in大阪出展

7月6日(日)午前10時からインテックス大阪1・2号館において、レジナビフェア2015 in大阪「医学生・初期研修医向け研修病院説明会」が開催され、本学もブースを開設しました。この日は大規模イベントということもあり、1,500名を超える医学部学生・初期研修医が来場。本学ブースにも112名が訪問し、会場は熱気に包まれました。



多数の参加者が訪れた本学ブースの様子

■ イベントデータ

来場者数：1,654名(会場全体)
本学ブース：112名来訪(全体比6.8%)

マイナビレジデントフェスティバル大阪に出展



担当者の説明に耳を傾ける参加者

9月13日(日)午後1時から、梅田クリスタルホールにおいてマイナビレジデントフェスティバル大阪が開催され、5月17日(日)に引き続いて本学も参加しました。今回は4学年の医学部学生が対象で、66名の国公立大学医学部学生が本学ブースを訪問。参加者は熱心に担当者の説明に耳を傾けていました。

■ イベントデータ

来場者数：169名(会場全体)
本学ブース：66名来訪(全体比39.1%)

ACLSプロバイダーコース 第1回ACLS講習会開催

9月12(土)・13日(日)いずれも午前9時から枚方学舎3階シミュレーションセンターにおいて、全3回の開催予定で初期研修医を対象とした第1回ACLS講習会(プロバイダーコース)を開催しました。受講者は、心肺停止状態の人に対して医療体制が整うまでに行う一次救命処置(BLS)を基盤とした、さらに高度な二次救命処置(ACLS)を学ぶべく、チームで協力して迅速かつ適切な判断・行動がとれるよう真剣に受講。2日間のコースを修了し、修了証が授与されました。



講習会に臨んだ初期研修医

医療事故調査制度について

関西医科大学同窓会理事・一般財団法人加多乃会理事 宮崎 浩彰 (56回生)

私は大学の医療安全管理センターに勤務しています。今回は、診療に携わる全ての同窓生に関係がある、本年10月1日に開始された医療法による医療事故調査制度についてご紹介します。

1. 医療事故とは

一般的には、旧厚生省医療局国立病院部 リスクマネージメントスタンダードマニュアル作成委員会が策定した「医療に関わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故。なお、医療従事者の過誤、過失の有無を問わない」という定義が使用されています。しかし、厚生労働省はこの定義は一委員会が策定したもので、厚生労働省として定義したことはないとし、本制度の対象となる医療事故は「提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの」と定義づけました。

2. なぜ医療事故調査が法制化されたのか

事故調査というと、責任の所在と過失責任を問う印象がありますが、そうではなく医療事故の再発防止を行うことで医療の安全を確保する目的で法制化されました。航空や鉄道事故には、航空・鉄道事故調査委員会設置法がありますし、実は東京電力福島原子力発電所事故についても法律に基づいて調査委員会が設置されています。医療もようやく他の公共サービスと同様に過失追求型から再発防止、安全追求型に舵を切ったと言えるでしょう。ただし、他の産業と同様に、刑法上の過失責任追及がなくなったわけではありませんし、専門職として必要な水準に満たない場合の責任は負う必要があるものと考えます。

3. 医療事故調査について

厚生労働省は医療事故調査の流れを下図の様に示しています。医療事故調査制度の対象となるかの判断は、医療機関の管理者に委ねられています。判断基準は、医療法施行規則により、管理者が下記3項目のいずれにも該当しないと認めたものとしています。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 当該医療が提供される前に医療従事者等が患者やその家族に対して死亡又は死産が予期されることを説明していた (2) 当該医療が提供される前に医療従事者等が死亡又は死産が予期されることを診療録などの文書に記録していた (3) 医療従事者等からの事情聴取及び病院内の委員会で、当該医療が提供される前に医療従事者等が死亡又は死産を予期していた |
|--|

なお、説明や記録の内容については若干議論がありますが、「高齢なので死ぬこともある」といった曖昧な表現では死亡の予期とみなされず、「生命に危険の及ぶ可能性がある〇〇など重篤な合併症」といった明確な説明や記載が求められています。

また、管理者は判断に際して、医療事故調査・支援センターである一般社団法人 日本医療安全調査機構または医療事故調査等支援団体に相談することができます。支援団体は医師会などの職能団体、病院団体やその構成病院、学会などが指定されていますが、日本医師会がかなり積極的に活動されていますので、もし、「対象となる医療事故ではないか」と考えられた場合は、まず都道府県医師会の担当部署に連絡することが勧められます。

4. おわりに

今回の医療事故調査制度はようやく仕組みができあがり運用が開始されたところです。大学では医療安全管理センターを中心に附属三病院の医療安全管理部が連携し、病院職員への周知やマニュアルならびに手順の変更、学生教育を企画・実施しています。国内では、調査結果が刑事罰や訴訟に用いられるのではないかとといった制度そのものを危惧する意見がある一方、医療界が患者の安全に真剣に向き合うのか心配する意見もあります。本制度は公布後2年以内に見直されることが決まっており、今後の運用や制度の変更については、引き続き注目する必要があります。

(図) 医療事故調査の流れ (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000099650.pdf>)

メディア情報

教職員等メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員他を紹介します。

(主に平成27年7月1日～9月30日 ※判明分のみ)

精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	日本経済新聞 (2015.7.5朝刊)	連載企画「日曜に考える ヘルス」においてうつ病が取り上げられ、最新の医療技術や臨床現場における最先端科学の応用状況などの紹介とともに、コメントが掲載されました。
附属枚方病院	読売新聞 (2015.7.16夕刊)	連載企画「医なび」において咽頭がんが取り上げられ、「咽頭がんの診療件数が多い関西の主な病院」の一覧に附属枚方病院が掲載されました。
腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授	日本経済新聞 (2015.7.26朝刊)	連載企画「日曜に考える ヘルス」において内視鏡手術が取り上げられ、内視鏡外科学会による専門医の認定に関して、日本内視鏡外科学会会長としてのコメントが掲載されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	ABCラジオ 「おはようパーソナリティ道上洋三です」 (7月29日)	真夏の中老年男性の健康への注意点についてコメントしました。
健康科学教室 木村 稔 教授	朝日放送 「おはよう朝日・土曜日です」 (8月1日)	熱中症から引き起こされる心筋梗塞や脳梗塞など、高温多湿な季節における中老年の健康リスクについて司会者からの質問に回答し、リスクの実態と発症を防ぐ方法などを解説しました。
腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授	日本経済新聞 (2015.8.6朝刊)	連載企画「交遊抄」に、大学時代から続く同級生との交遊についての寄稿が掲載されました。
腎泌尿器外科学講座 松田 公志 教授	週刊文春 (2015.8.13・20 夏の特大号)	「肺がん、胃がんなど全9分野を専門医が厳選 本当に手術が巧いがん外科医107人リスト」が掲載され、泌尿器がん分野で複数の専門医から推薦を受けた外科医として紹介されました。
眼科学講座 山田 晴彦 准教授	NHKラジオ第一放送 「関西ラジオワイド」 (9月2日)	『季節の健康』に出演し、「糖尿病網膜症—最近の治療法」をテーマに、症状や発症原因、新しく認可された抗VEGF療法とそのデメリット、対処法などを解説しました。

*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

実は私、高校時代弓道部でした。毎日朝早くから夜遅くまで、弦に矢をつがえ、弓を引き絞り、的に放つ。ただそれだけの動作を延々と繰り返していたわけです。と、こう書くと簡単なように思えますが、これがまた奥深く…。どれだけ上達しても試合で勝っても「まだまだもっと上手くなれる。もっと直すところがある」と思いながら、日々練習に励んでいました。

そして今。あの時の思いは今も変わりません。「まだまだもっと良い仕事ができる。もっとやるべきことがある」と。

当時の弓道部顧問は、「成長というのは、終わらない螺旋階段。同じ所をぐるぐる回っているように見えても、景色は確実に高みへ登っている。ただひたすらに登り続けろ」と励ましてくれました。今の自分は、あの頃の自分よりどれくらい高く登れたのか、気になるところです。(一)

関西医科大学広報は、本学HPでも閲覧できます

この広報誌は創刊号から最新号まで、本学HPでも公開しています。過去の記事を閲覧したい場合は、本学HPトップページから右下のリンク「関西医科大学広報」をクリックしてください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

「関西医科大学広報」についてのご意見・ご感想は、下記奥付に記載してある連絡先に郵送いただくか、メールアドレス、電話番号までお願いします。皆様のご意見をお待ちしています。

関西医科大学広報 Vol.31

発行 学校法人 関西医科大学
編集 法人事務局総務部広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101 (代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成27年11月13日(金)発行